

＜基本情報＞

所在地：鹿児島市
年齢：25歳（H30.4就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜、露地野菜、水稻
面積：水稻 10a
施設野菜 きゅうり 13a
露地野菜 なす 3a、ピーマン 3a、オクラ 3a、スイートコーン 3a、
キャベツ 10a、ブロッコリー 10a、はくさい 5a



ハウス栽培のきゅうり

＜就農のきっかけ＞

幼少の頃から父親に付いて農業を手伝っており、野菜を育てることが好きだった。中学生の時に、将来の職業を一番身近であった農業に決め、尊敬する父親が学んだ県立農業大学校へ進学した。県立農業大学校を卒業すると同時に、地元で平成30年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・農地は、親から譲り受けたものは無く、自分で探したり農業委員会に相談するなどして、借り受ける（一部は購入）ことができた。
- ・農機具は父親から借りたが、トラクターは補助事業を活用し自分で購入した。

＜現在＞

- ・収穫量は変わっていないが、品質が向上したため規格外品が減り収入もアップしている。
- ・就農当時から整備しようとして計画していたハウスが、補助事業を活用して今年2月に完成した。
- ・農業仲間を増やそうと思い、SNSを利用して農園の紹介や農業の魅力などを情報発信したり、JAのイベントにも積極的に参加している。



新設したハウス

② これまで苦労した点

- ・市場に出荷できるだけの収穫量が無かったので、自分で売り先を見つけるためにセールスをするのが大変だった。
- ・住居に近い農地を探したが、なかなか見つからなかったこと。
- ・一人で全てをこなしているため、出荷時期になると他の作業との両立ができないこと。

③ 就農して良かった点

- ・野菜の購入者から「おいしかった」と言われた時が一番嬉しく、やりがいを感じる。

④ 今後の目標

- ・まずは、新設したハウスのきゅうり栽培を軌道に乗せて、その収穫量が県の基準を超えるようにしたい。
- ・将来的にはスマート農業(ハウス内の環境制御)を取り入れて、更なる収量アップを目指していきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・困難なことに直面しても一人で悩まずに、先ずはいろんな人に相談することが大切である。
- ・就農するに当たっては、施設や機械だけではなく、資材を購入するためにも資金が必要なので、事前に準備しておくこと。
- ・県立農業大学校等で技術を習得してから就農すること。可能であれば更に農家で1年程度の修行を勧める。
- ・就農してすぐは収量が少ないことから、事前に少量でも取引可能な売り先を見つけておくこと。
- ・親元就農したり農業を引き継ぐ予定がある場合は、親に頼らず当事者意識を持って経営状況や営農計画をしっかりと把握し、いつでも自立できるようにしておくこと。

＜基本情報＞

所在地：鹿屋市
年 齢：37歳（H30.8就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：ピーマン 28a



出荷前のピーマン

＜就農のきっかけ＞

地元企業に就職し、仕事や会社の良いところ、悪いところが分かり始めたころ、何気ない夫婦の会話の中で、妻からピーマン農家でアルバイトをしていたころの話を聞き、農業に興味を持つこととなった。32歳の時に、妻に農業を始めたいと相談したところ、力強い後押しがあったことから脱サラし、平成30年8月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・就農するまで農業に関する技術を学んだことがなかったことから、市からピーマン部会を通じて先輩農業者を紹介してもらい、一年間通いながら研修を受けてピーマンの栽培技術を習得した。
- ・独立就農であったことから、農地はJ Aから紹介を受け、農地中間管理機構を通じて借り受けた。
- ・国や県の事業を活用してハウスを建設するとともに、機械（動力噴霧器等）も購入した。また、一部の機械（トラクター等）については近隣の農家から借り受けて使用している。

＜現在＞

- ・近隣の先輩農業者から樹形の整え方などのアドバイスを受け、また、県の普及指導員やJ Aの営農指導員の指導を受けながら、技術向上のために日々研鑽中である。



ピーマン

② これまで苦労した点

- ・ピーマンの樹形の整え方について、繁茂しすぎると作業に支障をきたし、繁茂を抑制すると実がつかないなど、就農後4年間試行錯誤しているが、現在も理想の樹形を確保することができていない。
- ・昨今の燃油高騰など支出が多くなっているが、それに見合う収入が得られない。

③ 就農して良かった点

- ・農業はサラリーマンと違い時間の制約がなく、自分のやり方次第で結果がついてくるのが最大の魅力で、農業にやりがい・生きがいを感じている。また、夫婦で作業を行っていることから、家族と接する時間が長いのも魅力の一つである。

④ 今後の目標

- ・収穫量を上げるために環境制御装置を充実させるとともに、国の事業を活用してハイブリッド型のヒートポンプを設置し、燃油高騰時の支出削減に繋げたい。
- ・天敵を活用した害虫防除など、総合的病害虫・雑草管理（IPM）を導入し、環境に配慮した次世代に繋がる農業を実現させたい。
- ・自動灌水システムなどのスマート農業を実践し、効率的で時間に余裕のある農業経営を行いたい。
- ・農地については、10年間の利用権設定で借り受けているが、地権者の意向によっては購入することも検討している。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・自分が非農家で農業の知識もないまま就農した中で、近隣の先輩農家のアドバイスなどを受けながら営農を行ってきたことから、人間関係を第一に地域に根差した農業者になってほしい。

＜基本情報＞

所在地：枕崎市

年齢：36歳（R3.4就農）

＜経営概要＞

品目：かんしょ、施設野菜

面積：かんしょ 2ha、
施設野菜 ニガウリ 2a

ハウス内のニガウリ

＜就農のきっかけ＞

工業系の高校に通い、県立農業大学校の農学部野菜科に入学。卒業後、介護関係の仕事に就いていたが、一生懸命農業に取り組む農業者である父親の姿に魅力を感じ、父親が経営する農場を一部引き継いで、令和3年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- 慣れない機械の操作は、父親から指導を受けた。
- 農地は約2haを父親から譲り受け、機械や施設は父親と共同で使用している。

＜現在＞

- 県立農業大学校時代に研究したニガウリの施設栽培を始めた。また、ニガウリの裏作としてスナップエンドウの栽培を予定している。
- 独自に工夫していることとして、液体肥料のエコバランスや根っこりんを使用している（植物の根にある良い菌類を増やす効果がある）。
- 昨年、就農して初めてかんしょの収穫を行った。今年も、サツマイモ基腐病の防除をしっかりと行い、収量を確保していきたい。



かんしょのほ場

② これまで苦労した点

- 消毒作業に動力噴霧器を使用しており、ほ場にホースを引っ張っていく作業は体力的に大変である。
- 昨年は経営面積を増やしたため、かんしょ収穫期には非常に忙しかった。
- 作業の段取り等効率が悪く苦労した（現在は、よく考え工夫するようになった）。

③ 就農して良かった点

- 農業機械の操作やマルチ張りの大変さを実感し、父親の今までの苦労が分かった。
- かんしょの作付面積を増やしたことにより収入が増えた。
- 質の良い農産物ができ、収穫したニガウリを販売した時、地域の人から高評価を得て嬉しかった。

④ 今後の目標

- 現在、かんしょは焼酎原料用のコガネセンガンと青果用の紅はるかを作付けしている。今後は収益を上げるため、紅はるかの面積を増やしていきたい。
- 新たに管理機を購入し、スナップエンドウやオクラ等の品目を増やしたい。
- 消費者に直接、農産物を届けられるネット販売や直売所での販売、また青果用に出荷できないものを有効活用するため、業務用の食材や菓子原料用等としての販路を開拓したい。
- 有機農業は大変であるが、過度な農薬や化学肥料の使用は環境や身体に悪いと感じており、将来は有機JAS栽培に取り組みたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- 農作業安全を心がけ、機械操作は周りをよく確認し、慎重に行って欲しい。
- 県立農業大学校で就農に役立つ多くのことを学んだ経験から、就農前に大学や研修施設等で農業の技術を習得しておくことを勧める。
- 父親の農作業を手伝ってきたことが役に立った。農業体験をできる機会があれば積極的に経験しておいた方がよい。

＜基本情報＞

所在地：阿久根市
年 齢：41歳（H30.4就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：スナップエンドウ 8 a、
オクラ 4 a



ハウス内作業の様子

＜就農のきっかけ＞

就農前は他県の百貨店でブランド販売を行っていた。いつかは地元に戻りたいと考えていたところ、妻の後押しや平成28年に熊本地震があったこともあり、娘が小学校に上がる平成29年に地元へ帰った。最初は農業で生活できるか不安で再就職も検討していたが、農業をやってみようという気持ちが高く、普及指導員の勧めもあり、平成30年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・父がJA勤務時代から兼業農家で退職後も農業を続けており、トラクターは父から譲り受けた。
- ・農地も父からの贈与であるが、ビニールハウスの建設費用は補助事業を活用し、不足分は公庫から融資（無利子）を受けた。また、新規就農者助成金は今年が最終年となる。
- ・営農指導員から初心者でも栽培し易いとの勧めでスナップエンドウを選んだが、初年度は分からないことがあるたびに一日何度も電話で指導を受けていた。

＜現在＞

- ・昨年オクラの栽培も開始した。また、スナップエンドウは市のふるさと納税の返礼品として扱われている。



ハウス内のスナップエンドウ

② これまで苦労した点

- ・就農当初は経済的に苦労した。週2回のバイトで収入を補っていた。今考えてみると作業的に無駄が多かったと感じている。
- ・現在は収穫最盛期の労力が不足していること。毎日30～40kg収穫、最盛期は200kgを超えるため、妻と夜遅くまで作業を行っている（今のところ雇用は考えていない）。

③ 就農して良かった点

- ・手間を掛けた分、対価が返ってくるところ。
- ・ふるさと納税の返礼品として扱ってもらっていることもあり、消費者から「美味しかった」と言ってもらえる時は嬉しい。

④ 今後の目標

- ・栽培技術を改善し収量を上げること。今年の夏場にハウス天井の遮光を試してみたところ品質が向上した。
- ・自分が農業で稼いでいるモデルとなって、農業をやりたいと思う若い人を増やし、農業を皆が憧れる職業に押し上げていきたい。
- ・稼げるのが分かれば若い人も農業をやりたいと思う。そして、「農家のお嫁さんになりたい」という人が増えてくれることを願っている。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・新規就農者助成金が交付される間は、手の行き届く規模で行い、まずは技術を磨くこと。
- ・近所のベテラン農家のほ場を見に行き勉強すること。また営農指導員を頼ること。
- ・農業を始めれば、まずは研修等で体験し実際にやれるのかを判断すること。

＜基本情報＞

所在地：出水市

年 齢：48歳（H29.8就農）



ミニトマト

＜経営概要＞

品目：施設野菜

面積：ミニトマト 25 a

＜就農のきっかけ＞

専門学校で22年間勤務し簿記の講師や広報を担当していたが、自分の能力の限界や仕事への閉塞感から、職場での将来像がイメージできなくなった。自分らしく生きるため、何が向いているのか考えた先が農業であった。周りからの大反対もあったが43才で会社を辞め、1年間の研修を経て、妻の実家がある出水市で平成29年8月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・ミニトマト（品種名：小鈴クイーン）25aをハウスで栽培し全量をJAに出荷。JAや出水市の推奨と、収穫期間が10～6月までと長く、その期間の収入が見込めることからミニトマトを栽培することにした。
- ・土地、施設の所有には多額の資金が必要なことから、農地とハウスは購入ではなく妻の実家近くに賃借している。
- ・資金は前職の退職金もあったが、農機具の購入資金と当面の運転資金は公庫から調達した。なお、国からは新規就農者助成金の交付を受け、ハウス開閉装置は県単事業で整備した。
- ・出水市アグリセンター（種苗施設）においてミニトマト等の栽培研修を1年間受講。また、地元の農家（女性）に師事し技術の習得に努め、仕立て等の栽培技術は、ミニトマト栽培の盛んな隣県の生産者から学んだ。



ハウス内のミニトマト

＜現在＞

- ・就農当初の単収は7～8トンであったが、肥料配合の工夫、防除の徹底等により、現在は12トンと安定した収量が確保できるようになり粗収益は倍増した。

② これまで苦労した点

- ・前職の退職金があったが、それでも資金繰りには苦労している。
- ・就農して数年は、病害の発生や作業の遅れなど生産技術が未熟で苦労した。
- ・栽培面積に対してどれだけの労力（雇用者を含め）が必要か見極めることが難しい。

③ 就農して良かった点

- ・自分らしく生きることができる。ただ、就農時には周囲の99%の人から反対された。

④ 今後の目標

- ・技術を磨き、更なる単収アップと栽培面積を現在の2倍（50a）にしたい。
- ・適期作業のために、人件費は惜しまず投資し、人件費の増加分は手入りを徹底することで所得の増加を図っていきたい。
- ・自分らしく良い作物を作るよう努力していきたい。そうすることで必ず単収と所得はついてくる。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・営農をスタートする上で利用できる制度や事業を調べるなど、事前に情報収集しておくこと。研修制度や国等の助成金を活用することは重要である。
- ・どのような形態（賃借か購入等）で始めるのか、自らが市役所等へ足を運び相談することが必要であり、それができなければやらない方がよい。
- ・就農イコール個人事業主となることを肝に命じ、新規就農者助成金を受けたら受領期間中に一定の成果（収入）を出すことが重要である。一定の成果が出ていなければ新規就農者助成金が終了した後に借入金が膨らんでいくことになりかねない。